

～青島からタクシーが消えた日～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
和木田 真功

今回のテーマは、「タクシー」です。タクシーの基本情報、そして6月に青島で起きたある事件について順にご紹介します。

1. タクシーの価格

中国のタクシーの価格はとても安く、日本でいうバス感覚で乗ることができます。初乗りは9元（144円 1元＝16円で計算）で3km以内は初乗りで乗ることができます。

2. タクシーを捕まえるには

大通りに出ると、日夜多くのタクシーが走行しており、タクシーを捕まえるのにそれ程苦勞することはありません。停め方は日本と同じで手を挙げるだけです。しかし、最近では、スマートフォンのアプリを利用して、タクシーを捕まえることができます。GPS機能を使い、周囲の同じアプリをダウンロードしている運転手に行先と現在地を通知し、条件が合えば配車成功です。現在、ほとんどのタクシーがこのアプリを利用しており、イベント等で人の往来が多い日などは、このアプリを使わなければ乗車が困難な場合もあります。

3. タクシーが消えた日

6月中旬、日ごろ多くのタクシーが行き交う街中から、突如タクシーが1台残らず姿を消しました。実はタクシー会社がストライキを実施したのです。従業員が会社に対し、待遇改善を求めストライキをするのはわかりますが、タクシー会社がストライキとはなぜでしょうか？これには上記で紹介した配車アプリが大きく関係してきます。

実はこの配車アプリでは、いわゆる「白タク」（自家用車でタクシー業を営む人たちのこと。）を配車することができます。自家用車を持つ人は、このアプリに登録をすればタクシー業を行えることから、近年その数は増加を続けています。この白タクは一般のタクシー会社のタクシーと比べ料金が安く、また車両も綺麗ということでアプリ利用者の多くは白タクを利用するのが現実です。

これに対し、タクシー業界のアプリ会社への反発が強まり、この度のストライキへと至りました。日本では禁止されている白タクですが、中国政府は今年3月、アプリを利用した白タクの配車を容認する方針であることを発表しました。そのことも今回の件に大きく関わっているのではないかと考えます。

4. その後

ストライキは5日程度で終了となり、今ではまた多くのタクシーが街中を走行しています。私は安全面を考慮し、普段はメーターがついた正規のタクシーしか利用しませんが、やはり接遇面には問題を感じます。今回を機に、タクシー業界全体のサービスが向上されることを願ってやみません。

アプリ使用時の付近の白タク（左図）と正規タクシー（右図）数の比較



【付近の白タク（4台）】



【付近の正規タクシー（11台）】